

Hand in Hand

合唱祭を振り返って



2年ぶりの合唱祭は1年生のときとは全く違っていた。

コロナ禍の中、練習ではなかなかクラス全体で合わせて歌うことができず、合唱祭に対するモチベーションを上げていくのが難しかった。パート練習での音取りも難しく、ピアノを弾ける人があまりおらず、「これで本当に歌えるのか」という不安が大きかった。しかし、今年度から導入されたCromebookを活用し、練習することができた。楽譜作成などができるソフトの利用や合唱を録音してより良い合唱を目指した。コロナでできることは限られていたものの、パートリーダーの3人と協力することで、仕上げていくことができたと思う。また、個人的に、各パートの歌のポイントやクラスの話し合いでの歌詞の解釈をまとめたプリントを作成し、先生に印刷していただいてから配付した。クラスみんながどれくらいプリントを読んでくれたかは分からない。しかし、自分が指揮をする上でどのような解釈をもって表現するか考える土台となったので効果があったと感じる。

朝練では、登校時間にばらつきがあり、全員が参加するのは厳しく、せっかくの体育館練習という日でも、朝一番は声が小さかった。それでも、少し早く学校に来て、文句を言いつつも練習に参加してくれたみんなに感謝したいと思った。

本番前日の中講義室の練習は、それまでで一番良い合唱だった。指揮に合わせて表現をつけられるほどに仕上がりが、2週間の練習の成果が見えた。クラスの目標である「結果を出す」ということが現実味を帯びた瞬間だった。しかし、男性陣が歌い終わったらすぐに列を崩してしゃべり始めたため、せっかくほめているのにあまり聞いていないようだった。でもそれは、いつも通りという証拠だったため、あまり気負いせずに伸び伸びと歌えるということだと思うことにした。

夜、サンプラザホールへの道に迷うという夢を見てドキッとしたが、当日の朝は程よい緊張感の中、落ち着いて行動し、無事に会場にたどり着いた。

そこから先は時間の流れがとても早く、すぐにリハーサルを迎えた。朝のため声が出ないかもしれないという不安があったが、歌いだしの呼吸、しっかりとした発音から、安心して指揮を振れた。ただ、みんなの表情が硬く、少し怖かった。

本番前の待機時間、私のことを思ってなのか声をかけてくれる人がいて、直前まで笑顔でいることができた。1組が本番を迎え、みんな一斉に静かになり、ホール内は見えないが聞こえてくる拍手に合わせて手をたたき音が廊下に響いた。こんなに良いクラスで指揮が振れるんだという喜びを感じた。

そして、演奏。一人だけ聴衆に背を向けてステージ全体を見渡す。なるべく一人一人と視線が、呼吸が、心が合うように心がけた。自分の気持ちの面で、今後の合唱祭では指揮を振ることはもう二度とないと思いつたため、指揮ができたのが2組の「春に」で本当に良かったと強く感じた。曲が終盤に近づくにつれ、まだこの歌を聴いていたい、まだ指揮を振っていたいという気持ちが声にならない叫びとなってこみあげてきた。ffの部分で鳥肌が立った。礼をすることを忘れそうなくらいだった。決してうまく指揮ができたわけではないが、クラスの一員として舞台上に立てて良かった。

合唱祭は幕を下ろした。一番重視していた「結果を出す」ことはできなかった。私の力不足だ。悔しい結果だが、得たものはとても大きかった。目標への様々なアプローチや集団に対する指示の出し方、バラバラのものをひとつにして完成させるということも理解できた。この経験を新たな糧として今後も色々なことに取り組んでいきたい。また、一緒に頑張ることができ、多くのことを経験させてくれた2組のみんなに感謝したい。大変なことも多かったがとても充実して楽しい時間だった。 2組



楽譜表紙絵 さん作

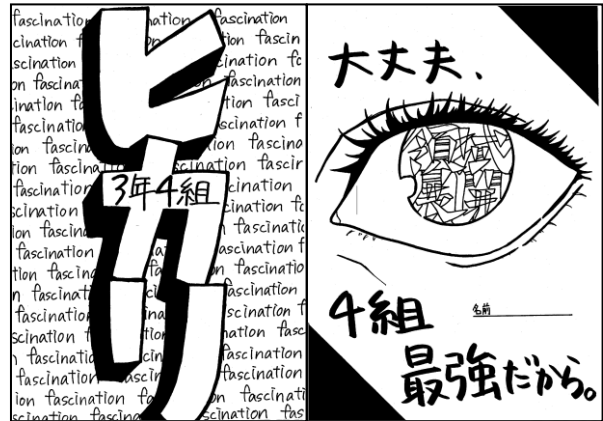
テスト明けから本格的に合唱練習は始まった。3年4組は3人の合唱部員と1年生のときに指揮者賞をとった高橋歩夢さんがいるということで、4月にクラスが決まったときから合唱祭で受賞できるのではないか、と私は期待に胸をふくらませていた。

練習はパートリーダーさんの指導で進められた。合唱部さんが仕切ってくださいということで安心して練習に臨むことができた。また、指導のおかげで上達しているということがよく感じられたということもあり、日に日に最優秀賞をとれるのではないかとりたい！という思いが強まっていった。

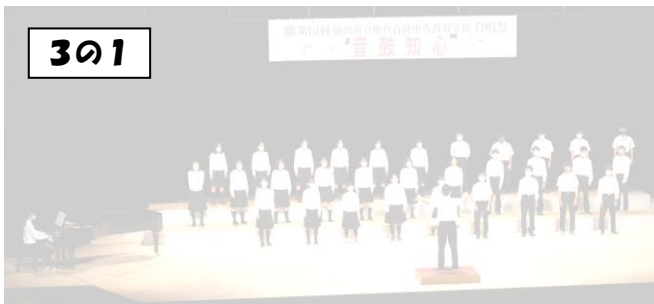
しかし、本番で全員が全力を出したが、最優秀賞をとることはできなかった。実際に自分たちの演奏は、上手だった。私の部活の5年生の先輩は、「私たちが3年生のときに歌ったヒカリよりも確実に上手だった。全学年の演奏を聞いたけど、3年生の演奏が一番上手だった。」とってください。その言葉を聞いて私は念願の賞はとれなかったが、クラスの「fascination」という目標は達成できたのだなと思った。

今回、最優秀賞がとれなくてすごく悔しかった。まわりにいた子たちもすごく悔しがっていた。だが、こんなにも悔しく思えたということは私たちが本気になって練習した証なのではないかと思う。賞こそとれなかったものの、本番は物怖じせず堂々と、楽しんで歌うことができた。合唱祭をこんなにも本気で、そして楽しめたのは指導してくれたパートリーダーさんや指揮者さんたちのおかげだと思う。今年の合唱祭は私の中でとても良い思い出になった。この思い出を共に作り上げた4組のみんなに感謝したい。

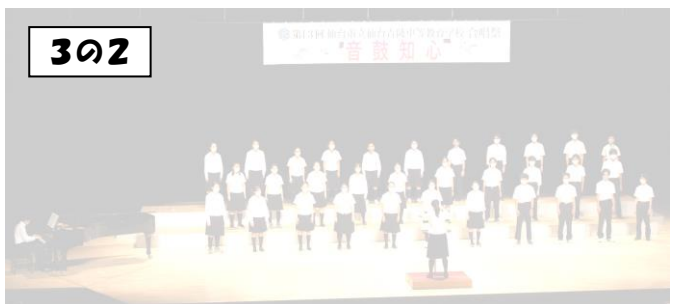
4組



楽譜表紙絵 さん作



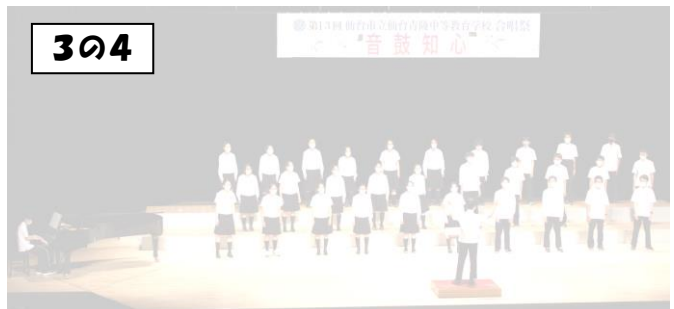
301



302



303



304

♪ 合唱祭での“閉会のことば”

皆さん、1・2年生にとっては初めての、3年生にとっては2度目の合唱祭はどうだったでしょうか。皆さんはきっとこの合唱祭に向けて、クラス毎に一致団結して練習してきたことと思います。しかしながら、思ったような結果が出なかったクラス、結果が出たクラス、それぞれいるでしょう。しかし、結果にかかわらず、このサンブラザホールという大きな空間に音を届け、美しい歌声を奏でた皆さんの合唱はとても素晴らしいものであったと思います。with コロナという言葉があるように、この方法の合唱祭がこれから毎年行われる可能性もあります。それとも、いつしかコロナが収まり、例年の様な方法に戻るかもしれませんが、いずれにしても、今が、伝統の変化の時期であることは否めないでしょう。皆さん、これから新しく作られていくであろう伝統とこれまでの先輩方が築き上げた伝統、そのどちらも受け継ぎ、これから入ってくる後輩たちに継承していくことを私は願っています。これを閉会のことばといたします。 合唱祭副実行委員長